

殺菌剤

ベンレート® 水和剤

有効成分:ベノミル…50.0%

ベンレートは住友化学(株)の登録商標です。

いろんな**作物**につかえる!
いろんな**病害**につかえる!

雨にも
ケロツと!





果樹

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*			
みかん	そうか病 灰色かび病	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	前日	4回	散布	4回			
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍								
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害 (青かび病) (緑かび病) (軸腐病) (炭疽病) (黒斑病)	4000~6000倍			2回		2回	2回		
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍								
	りんご	黒星病 黒点病 褐斑病 うどんこ病 腐らん病 輪紋病 すす点病 すす斑病 モニリア病							2000~3000倍	4回
りんご(苗木)	白紋羽病	1000倍			—		植付直前	—	10~30分間根部浸漬	—
なし	胴枯病 輪紋病 黒星病 うどんこ病 心腐れ症(胴枯病菌)	2000~3000倍			200~700ℓ/10a		前日	4回	散布	6回 (塗布は2回、 散布は4回)
	枝枯病 胴枯病	20倍			—		3月~6月	2回	マシン油乳剤で希釈し塗布	
かき	落葉病 うどんこ病 炭疽病 すす点病	2000~3000倍			200~700ℓ/10a		前日	6回	散布	6回
	擬似炭疽病	2000倍								
もも	うどんこ病 灰星病 黒星病 ホモブシス腐敗病	2000~3000倍	3回	3日前		3回	3回			
	ネクタリン							灰星病 黒星病 ホモブシス腐敗病		
うめ あんず	黒星病 すす斑病	3000倍	7日前	1回		1回	1回			
おうとう	灰星病 褐色せん孔病							3日前		2回
ぶどう	褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 晩腐病	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	45日前		3回	散布	4回 (休眠期処理は1回、 散布は3回)		
	黒とう病 芽枯病	2000倍								
	黒とう病 晩腐病 つる割病 枝膨病	200~500倍		休眠期		1回				
	くり	実炭疽病		2000~3000倍		裂果前但し、 14日前				4回
キウイフルーツ	果実軟腐病 すす斑病	2000倍	7日前	5回	5回					
ブルーベリー	斑点病 バルデンシア葉枯病	3000倍	1回	1回	1回					
びわ	灰斑病	2000~3000倍	14日前	3回	3回					
	ごま色斑点病	2000倍								
ピタヤ	炭腐病	—	2回	2回						
いちじく	株枯病	1000倍	1~10ℓ/樹	30日前	5回	株元灌注	5回			



野菜など

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*
きゅうり	菌核病 灰色かび病 炭疽病 黒星病 つる枯病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子への処理は1回、 は種後は3回)
	つる割病	1000倍	150~300ml/株	定植前~定植1ヶ月後		灌注	

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*	
うり類 (漬物用)	炭疽病	1000倍	150~300ml/株	定植前~45日前	2回	灌注	3回 (種子粉衣は1回、 は種後は2回)	
ズッキーニ	菌核病 つる枯病	3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	
すいか	つる枯病 菌核病 炭疽病	2000~3000倍			5回		6回 (種子粉衣は1回、 は種後は5回)	
メロン	菌核病				定植後~14日前		土壌灌注	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)
かぼちゃ	白斑病							
なす	半身萎凋病	500倍 1000倍	200~300ml/株 400~600ml/株	定植後~14日前	3回	散布		
なす	黒枯病 灰色かび病 菌核病 褐紋病 フザリウム立枯病	2000~3000倍 2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	
甘長とうがらし	炭疽病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	
ピーマン	うどんこ病 斑点病 炭疽病							
トマト	萎凋病	1000倍	150~300ml/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布及び常温煙霧は合計5回)	
トマト	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	5回	散布		
ミニトマト	萎凋病	1000倍	150~300ml/株	定植前~定植1ヶ月後	2回	灌注	6回 (種子への処理は1回、 灌注は2回、 散布は3回)	
ミニトマト	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布		
ねぎ	萎凋病	100~200倍	—	定植直前	1回	5分間苗根部浸漬 30分間苗根部浸漬	3回 (種子粉衣は1回、 苗根部浸漬及び 灌注は合計1回、 散布は1回)	
	小菌核腐敗病	500倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り500ml	定植前		灌注		
	小菌核腐敗病			30日前		散布		
わけぎ	萎凋病	1000~2000倍 500倍	100~300ℓ/10a —	30日前 植付前	1回	30分間種球浸漬	1回	
たまねぎ	乾腐病	50倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り500ml~1ℓ	定植前	1回	灌注	8回 (種子粉衣は1回、 育苗培土混和、 灌注または 苗根部浸漬は合計1回、 散布は6回)	
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約5ℓ) 当り500ml	は種前 移植直前	育苗培土混和 3分間苗根部浸漬			
	1g/1kg培土 20倍	—	—	—				
	灰色腐敗病 灰色かび病 黒かび病	2000~3000倍 2000倍	100~300ℓ/10a	前日	6回	散布		
らっきょう こんにゃく	乾腐病	500倍 50~100倍	—	植付直前 植付前	1回	30分間種球浸漬 種いもの芽基部に散布 10~30分間苗根部浸漬 1~3時間苗根部浸漬	1回	
いちご	炭疽病 萎黄病	500倍	50~100ml/株	仮植前	3回	灌注	9回 (種子粉衣は1回、 苗根部浸漬は1回、 育苗期の灌注は3回、 本圃定植後の灌注は1回、 散布は3回)	
	炭疽病 萎黄病			100ml/株	本圃定植後 但し、30日前			1回
豆類 (未成熟、ただし、 えだまめ、さやいんげん、 さやえんどうを除く)	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	3回	散布	6回 (種子粉衣は1回、 灌注は2回、 散布は3回)	
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注		
えだまめ	菌核病 紫斑病	2000倍	100~300ℓ/10a	30日前	3回	散布		
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注		
さやいんげん	菌核病 角斑病	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫開始14日前まで	3回	散布		
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注		
さやえんどう	菌核病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布		
	立枯病	1000倍	3ℓ/m ²	発芽14日後まで	2回	灌注		
豆類 (種実、ただし、 だいず、いんげんまめ、 えんどうまめ、 らっかせいを除く)	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	14日前	4回	散布	5回 (種子粉衣は1回、 は種後は4回)	



2024年3月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数*		
だいず	菌核病 紫斑病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	前日	4回	散布	5回 (種子粉衣は1回、 は種後は4回)		
	黒根腐病	乾燥種子重量の0.5%	—	は種前	1回	種子粉衣			
いんげんまめ	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	7日前	4回	散布			
えんどうまめ	菌核病	1000~1500倍		14日前					
	菌核病 褐紋病	1000~2000倍		7日前					
らっかせい	褐斑病 黒渋病	2000~3000倍							
	そうか病 茎腐病	2000倍							
レタス	菌核病	2000~3000倍		14日前					
	灰色かび病 すそ枯病								
アスパラガス	茎枯病 株腐病	2000倍		前日					
しょうが	いもち病 褐色しみ病	1000倍		21日前			2回	4回	2回
てんさい	褐斑病	2000~4000倍		4回			4回		
かんしょ	基腐病	500~1000倍	—	植付前	1回	30分間苗浸漬	4回 (植付時までの処理は1回、 植付後は3回)		
	つる割病					20~30分間苗浸漬			
	黒斑病					20~30分間苗基部浸漬			
	黒斑病					種いも重の0.4%		種いも粉衣	
	つる割病					500~1000倍		20~40mℓ/株	挿苗時
ばれいしょ	斑点病	1000倍	100~300ℓ/10a	7日前	3回	散布	3回		
	黒あざ病	種いも重の0.3~0.4%	—	植付前	1回	種いも粉衣	1回		
やまのいも	炭疽病 葉渋病	2000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (植付前までの処理は1回、 植付後は3回)		
さといも(葉柄)	乾腐病	種いも重量の0.5%	—	催芽前	1回	種いも粉衣	1回		
なたね	菌核病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	3日前	2回	散布	2回		
ブロッコリー	根朽病	2000倍		7日前	3回		4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)		
	2000~4000倍								
カリフラワー	菌核病	2000倍		7日前	6回		7回 (種子粉衣は1回、 は種後は6回)		
キャベツ	菌核病 根朽病								
非結球あぶらな科葉菜類 (みずな、 チンゲンサイを除く)	炭疽病 白斑病	4000倍		21日前	1回		2回 (種子粉衣は1回、 散布は1回)		
みずな チンゲンサイ	14日前								
はくさい	白斑病 菌核病	2000~3000倍		3ℓ/m ²	7日前		2回	散布	3回 (種子粉衣は1回、 は種後は2回)
ほうれんそう	炭疽病	2000倍			21日前				
しそ(花穂)	萎凋病	100~300ℓ/10a		14日前	45日前		3回	3回	
つるむらさき	菌核病								
パセリ	紫斑病	1000倍	3ℓ/m ²	30日前	2回	2回			
セネガ	立枯病								
ふき	黒根病	2000倍	100~300ℓ/10a	7日前	12回(1年間に6回)	12回(1年間に6回)			
せんぶり	葉枯病								
とりかぶと(薬用)	さび病	種いも重量の0.4%	—	前日	1回	種いも粉衣	1回		
しゃくやく(薬用)	白絹病	20倍	—	植付前	1回	10分間苗基部浸漬	11回 (植付前までの処理は1回、 植付後は10回 (1年間に2回))		
	根黒斑病	500倍				16時間苗基部浸漬			
みょうが(花穂)	いもち病	2000倍	100~300ℓ/10a	14日前	3回	散布	3回		
				3日前					
みょうが(茎葉)	みょうが(花穂)の収穫3日前まで 但し、花穂を収穫しない場合に あつては開花期終了まで	散布							
みつば	菌核病	種子重量の0.5%	—	は種前	1回	種子粉衣	1回		
		500倍							
せんきゅう	黒色根腐病	160倍	—	植付前	1回	24時間種子浸漬	1回		
かのこそう	半身萎凋病					30分間種球浸漬			
うど	菌核病	500倍	—	定植前	1回	30分間苗浸漬	1回		
たらなき	芽枯症	1000倍		28日前		30分間種株浸漬			
野菜類	フザリウム菌 による病害	乾燥種子重量の 0.16%	—	は種前	1回	駒木瞬間浸漬	1回		
とうもろこし	種子処理機による 種子粉衣								
オクラ	葉すす病	3000倍	100~300ℓ/10a	前日	3回	散布	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)		

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。



ハウス

2024年3月現在の登録内容

適用場所	作物名	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期*	本剤の使用回数*	使用方法	ペノミルを含む農薬の総使用回数*
温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	150g/10a	5ℓ/10a	前日	3回	常温煙霧	4回 (種子への処理は1回、は種後は3回)
	トマト					5回		6回 (種子への処理は1回、灌注は2回、 散布及び常温煙霧は合計5回)



稲・麦

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*	
稲	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	乾燥種比重の 0.5~1.0%	—	は種前 (浸種前又は浸種後)	1回	種子粉衣	—	
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	30~50倍				10分間種子浸漬		
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	30倍				6~24時間種子浸漬		
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	500~1000倍				12~24時間種子浸漬		
	ばか苗病 いもち病 イネシガレセンチュウ	100~500倍				24時間種子浸漬		
	いもち病	7.5~15倍				乾燥種粉1kg当り 希釈液30mℓ		種子吹き付け処理
	稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌)				500~1000倍		育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ
苗立枯病 (トリコデルマ菌)		1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ	は種時1回 又は は種時と は種7日後頃の2回				
いもち病		500~1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	は種時~は種14日後まで				
		1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ	は種時~は種7日後頃				
		育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1g	—	は種前	床土混和			
麦類(小麦を除く)	雪腐病	2000~3000倍	60~150ℓ/10a	根雪前	1回	散布	1回	
小麦	赤かび病	2000倍	60~150ℓ/10a	7日前	2回	散布	4回 (種子への処理は1回、 は種後は3回)	
	うどんこ病							



花き・樹木

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*
ばら	うどんこ病 黒星病	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	—	6回	散布	6回
きく	白さび病	1000倍					
りんどう	黒斑病 褐斑病	2000~3000倍					
	花腐菌核病	3000倍					
チューリップ	球根腐敗病	100~500倍	—	植付前又は貯蔵前	2回	15~30分間球根浸漬	2回
		球根重量の0.1~0.2%				瞬間浸漬	
しゃくやく ばたん	根黒斑病	20倍	50~100mℓ/鉢	—	3回	10分間苗基部浸漬	—
シクラメン	萎凋病	500~1000倍				16時間苗基部浸漬	
トルコギキョウ	立枯病 (フザリウム菌)	1000倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約4~5ℓ) 当り500mℓ	定植前日	1回	灌注	1回
パンジー ゼラニウム	根腐病 黒根病	2000倍	セルトレイ(60×30cm) 1冊当り500mℓ	育苗期	2回	散布	2回
樹木類	ごま色斑点病 炭疽病 輪紋葉枯病		200~700ℓ/10a	発病初期	—		—
いぬつけ	枝枯病	—	—	—	6回	—	6回

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。



その他

作物名	適用病害名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期*	本剤の 使用回数*	使用方法	ペノミルを含む 農薬の総使用回数*
茶	炭疽病 白星病 輪斑病 褐色円星病	2000~3000倍	200~400ℓ/10a	摘採14日前まで	1回	散布	1回
	白紋羽病	1000~2000倍	—	—		苗木根部24時間浸漬	
たばこ (苗木)	腰折病	1000倍	1~3ℓ/m ²	は種及び仮植後	2回	散布	2回
	黒根病	1000倍	2~3ℓ/m ²	仮植又は植付1~3日前まで			
西洋芝(ペントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ)	2000~3000倍	2ℓ/m ²	発病初期	6回	散布	6回
桑	胴枯病	1000倍	100~300ℓ/10a	摘採9日前まで	2回		
	輪斑病	2000倍					

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

⚠ 使用上の注意事項

＜効果・薬害等の注意＞

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 米の種子消毒の場合は下記の注意を守ってください。
 - 1) 消毒前に塩水選を行ってください。
 - 2) 消毒後は水洗いせずに浸種又は播種してください。
 - 3) 薬液の温度は10℃以下をさけてください。
 - 4) 粉衣処理では付着をよくするために予め種子を湿らせ(塩水選水切り後などが適当)湿粉衣してください。
 - 5) 浸種後処理は種子が鳩胸の時期になるまでに行ってください。
 - 6) 本剤処理を行った種子の浸種に当っては次の注意を守ってください。
 - ① 処理後、種籾を十分風乾してから行ってください。
 - ② 浸種は停滞水中で行ってください。
 - ③ 種籾と水の容量比は1:2とし、水の交換は行わないでください。ただし、水温が高く種籾が酸素不足になるおそれがある時は静かに換水してください。
- いもち病に対する本剤の育苗箱灌注処理は、本田で発生するいもち病に対しては効果が期待できないので注意してください。
- 薬剤が育苗箱からこぼれないように処理してください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。
- きゅうり、トマトに対して灌注処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、退色や生育抑制等の薬害を生じることがあるので、所定濃度を守ってください。
- なすの半蒴凋病に対して灌注処理する場合は、定植前及び定植時処理では葉の黄化、生育抑制等の薬害を生じることがあるので定植後に処理してください。
- たまねぎ、いちごに対して苗木根部浸漬処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、いちごでは活着不良、たまねぎでは初期生育遅延等の薬害のおそれがあるため、使用方法を厳守してください。
- いちごの萎黄病防除に使用する場合、特に多発地では植付前の土壌くん蒸と本剤処理とを組み合わせるとより有効です。
- こんにゃくの乾腐病防除に使用する場合は、種芋の芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に十分かかるように1m²当り100mℓ散布してください。
- 麦類の雪腐病防除に使用する場合は、散布は根雪近くに行ってください。
- りんごのモニリヤ病に使用する場合は、多発条件下では効果が劣ることがありますので、発病初期に時期を失ないように散布してください。
- なしの枝枯病、胴枯病に対してマシン油乳剤で希釈して塗布する場合は、病斑部及びその周辺に1~2回塗布してください。なお、病斑部を削り取った後塗布する場合は木質部が見えない程度に表皮を薄く削ってください。また、マシン油乳剤はベンレート水和剤に加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意事項を確認のうえ使用してください。
- かんしょの基腐病に使用する場合は、苗木全体が薬液に浸かるように処理してください。
- 桑の胴枯病に使用する場合は散布適期は9月上・中旬です。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守ってください。
 - 1) 煙霧用として使用する場合は専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の設定及び使用に当っては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
 - 2) 作業はできるだけ夕刻に行い、作業終了後6時間以上密閉してください。
- たばこ腰折病に対し親床で使用する場合は薬害を生じるおそれがあるため、希釈倍数は2000倍とし、散布量は1m²当り1~2ℓとしてください。また、発芽期には使用しないでください。
- 水耕栽培でトルコギキョウを栽培する場合には、廃液は環境中に流出しないように適切に処理してください。
- 本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるため過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせ使用してください。
- 本剤はエトフェンプロックス乳剤又はダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用をさけてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

＜安全使用上の注意＞

- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 使用の際は農業用マスク、不透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
- 水産動物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるため、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。施設内に水産動物を飼っている水槽等を置かないでください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器・空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空袋・空容器は農場等に放置せず適切に処理してください。

2364(24-3)